No

南魚沼市 金屋（かなや）遺跡第９次調査現地説明会資料

令和７年 11 月 15 日（土）

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

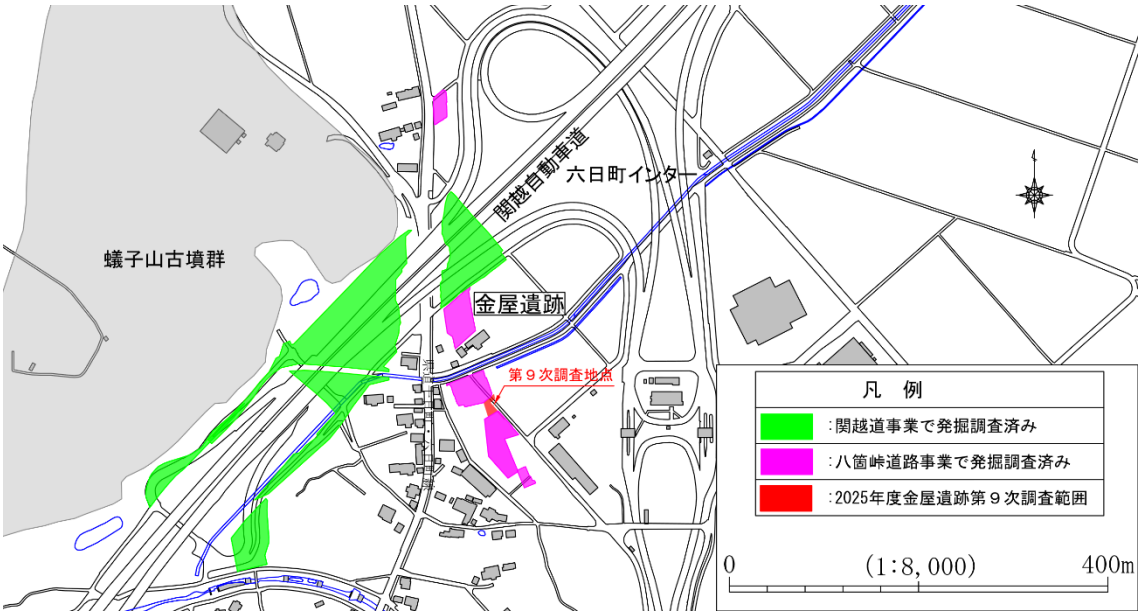
１　遺跡の概要

金屋遺跡第９次調査は国道 253 号八箇峠（はっかとうげ）道路建設事業に伴い、昨年に続き 10 月から発掘調査を実施しています。遺跡は、魚沼丘陵（うおぬまきゅうりょう）の東側に位置する独立丘陵の東裾部、庄之又（しょうのまた）川によって形成された標高約 192mの扇状地（せんじょうち）上に立地しています。金屋遺跡の発掘調査は関越自動車道建設に伴って初めて行われ、近年は国道 253 号八箇峠道路建設に伴って発掘調査を実施しています。これまでの調査成果で、古代魚沼郡の中心的な集落と考えられています。

令和７年度の調査面積は 192 ㎡で（下図の赤色範囲）、９世紀代の遺構面が２面存在します。

調査区全景（上空南東から）

上層面遺構完掘状況（上空東から）



金屋遺跡の発掘調査地点

２　遺構と遺物

調査は上層面と下層面で行いました。遺構はわずかですが、これまでの調査で見つかった９世紀（平安時代）の集落の一部と考えられます。

上層面では、調査区の東側からピット６基が見つかりました。なお、調査区の西側は江戸時代に発生したとされる大規模な土石流によって失われています。下層面では、土坑１基、ピット 11 基、溝４条、性格不明遺構２基、自然流路１条が見つかりました。このうち９世紀後半の大規模な自然流路である SR1001 は集落を分断するように北から南へ向かって流れています。SR1001 が埋没する過程で、東岸の浅瀬から土師器や黒色土器、須恵器の椀や杯が置かれたような状況で見つかっており、中には二枚重ねのものもあります（SX5018）。上から出土したものは正位（上向き）、下から出土したものは逆位（下向き）であったことから２回以上にわたって置かれたと推定されます。このうち短い直線を二つ並べた「||」のような印が施された墨書土器が４点あります。ほかに祭祀的な要素を示す遺物の出土はありませんが、SX5018 は SR1001 の川岸で行われた祭祀の跡である可能性が考えられます。また、特徴的な土製品として SR1001 の下流（南側）から魚網の錘である土錘が３点見つかっています。

下層面遺構完掘状況（上空東から）

SX5018 全景（上空南から）

SX5018 と SR1001 土層断面（北西から）

SX5018 遺物出土状況（北西から）

SX5018 二枚重ねの土師器椀

SX5018 出土の墨書土器

SR1001 土錘出土状況